

Masters

president, owner, director, boss, leader, captain.....

マスターズ——日本経済の未来を創る経営者たち

2022.2
February
Vol.40 No.484

特別取材企画

地域に生きる

企業は人なり～その人物像を探る

技を極めた匠

健やかな日々を支える医療

心に寄り添う介護・福祉

EXPERT'S EYE

明日を照らす教育現場

社寺聴聞

逸店探訪

巻頭特集

グローバル社会における 重国籍問題を知る

Current Topics/Column/editor's pick up

新たな技術革新の波 移動に革命をもたらす `MaaS、

生きた証を求めて—— 果てなき能楽に生きた世阿弥が伝えるもの

The Call of Muse. 坂本龍一とピアノ

エストニア共和国 大統領 アラル・カリス

Key
Person



(株)工コ技研 代表取締役

米澤 周作

技術、価格、実績、知名度——塗装業者を選ぶ際に、何を決め手にするだろうか。当然、全て重要な要素であり米澤社長自身、技術研鑽などには余念がない。その上で社長は、“人”こそが仕事を行う上で最も重要であると話す。技術を発揮するのも価格を決めるのも、仕事を依頼するのも全ては人である。だからこそ、周囲との関係や、義理を通し人情で応える姿勢などを重んじ、人としての信頼を築いていなければ、成り立っていかないと考える。お世話になった方々への感謝があり、それに応えんと前進を続けている社長は、事業推進のための揺るぎない信念を根っこに据え、さらに歩みを進めていく。

(対談記事は 54 ~ 55 頁に掲載)

「周囲の人を何よりも大切にする——
経営を進める上で、それが根本にあります」



代表取締役

米澤 周作



米澤社長の足跡：

宮城県出身。やんちゃな青春時代を過ごしたが、恩師のお陰で無事高校を卒業。同級生の家業が塗装業だったことからそちらに勤め、約15年間修業した。そして、同業者の兄からの誘いを受けて独立。数年の経験を経てそれぞれが別の道を歩む運びとなり、様々な試練も乗り越えながら法人化を果たし、現在に至っている。

塗装工事を主軸に快適な住まいを下支えし 事業を通し地域の人々のお役に立ち続ける

各種塗装工事を主軸としながら、防水工事、内装仕上げ工事、屋根工事、システムキッチン工事、浴室・トイレ工事、設備工事や住宅リフォームなど住宅関連の幅広い施工に対応する「エコ技研」。技術を磨き続けることは言わずもがな、周囲との関係性を丁寧に構築し、地域での信頼を獲得してきた。現在に至るまでには様々な苦勞もあったと話す米澤社長に、今回はタレントのつまみ枝豆氏がインタビューを行った。



■ 充分な修業を積み塗装業で独立 設備工事業などにも挑戦

——米澤社長は、いつから塗装のお仕事をされているのですか。

高校卒業後からずっとこの業界です。友人の父親の塗装会社に入り、ものすごく迫力のある厳しい親方でしたが、職人として鍛えていただき大変お世話になりました。そして約15年修業したころ、同じく塗装業界で働いていた兄から、独立して一緒にやろうと誘われまして。親方に相談したところ、「やってみろ！」と快く送り出してくれました。

——15年も働いた戦力を手放すのは惜しいはずですが、親方は粋な方ですね！

男なら独り立ちを、と応援して下さいました。そこから2年ほど兄と一緒に事業を進めましたが、結局別々でやることになり、改めて一人で独立したんです。ただ、経営者としては若造ですから、苦

勞の連続でした。うまい話に乗ったところ騙されてしまったり……。3年経ったころには、人生最大の失敗を経験することになりました。

——今のご活躍からは想像できないほど、苦勞されたんですね。

その後は、同業の後輩と協力したり、不動産屋さんから仕事をいただけるよう働きかけたり、試行錯誤してきました。この不動産屋さんのお付き合いが一つの転機になりまして、設備工事なども頼まれるようになっていったんです。

——社長は塗装工事を専門に歩んでこられたわけですね。

そうです。ただ、塗装で現場に入ると「実は水道も悪いんだけど」という話になることも多いんです。その時に「専門外だから」とお断りすることもできますが、依頼する側としては一つの業者に頼めたら助かりますよね。そこから業容を広げ、いくつかの業者に「教えて下さい」



株式会社 エコ技研

宮城県仙台市若林区蒲町39番29号

URL: <https://www.ecogiken.co.jp/>

と頼んで無給で現場に入らせていただくなど、勉強を重ねてきました。そこから仕事も増え、人から求められることに応えるという、シンプルかつ大切な事業の本質を改めて実感しました。

東日本大震災を乗り越え

改めて人との絆の重要性を実感

—そうして土台を固め、現在までこられたわけですね。

実は、順調に推移し始めたころ東日本大震災が発生したんです。資材などが全て流され、途方に暮れました。ただ、当時すでにスタッフが何人かいましたので、皆の生活もある。そこで、お世話になっていた不動産会社の社長さんに「雇っていただけませんか」とお願いしたんです。その時、「ここまでやってきたんだらう、お前が自分で何とかするんだ」と活を入れられて。さらに、必要な資材を貸していただけることになったんです。そこから、まずは地域の復旧のためにボランティアに駆けつけました。そして少しずつ復旧も落ち着いたころ、「あの時のボランティアに来た業者さんに頼みたい」と、多くの方が仕事を下さったんです。

—すごく良い話ですね。技術や価格だけではなく、そうした人と人との義理や

人情が絡み合って、助け合いながら商売が成り立っていくんですね。

本当にそう思います。仕事を頼むのも作業するのも対価を払うのも、全て人。それを理解し意識することが何よりも大切なことかと思えますし、スタッフの皆にも常に伝えています。振り返ってみると色々ありましたが、今では塗装工事はじめ、内装仕上げ工事、防水工事、屋根補修工事、浴室・トイレの工事、リフォーム、設備工事など住宅に関する各種施工を幅広く手掛けられています。

—苦勞を乗り越え周囲の期待に応えてこられたからこそ、現在があるのですね。

今もコロナのことなど一筋縄ではいきませんが、常に攻めの姿勢で進んでいきたいと思っています。最近ではHPを大幅にリニューアルし、YouTubeやTikTokのチャンネルを作って、作業風景をPRしています。動画で見ただければよりイメージしやすく仕事の依頼

もしやすいでしょうし、「一緒に働きたい」とこの仕事に興味を持ってくれる若い方も増えるかもしれませんから。

—時代に応じた方法を取り入れていらっしゃるのですね。

塗料なども日々進化しますし、常に勉強し、チャレンジを続けます。まだまだ道半ばですが、周囲の方々や地域に恩返しできるように、邁進していきたいです。

(取材/2021年11月)



タレント つまみ枝豆



「『エコ技研』さんの社内には、非常に立派で美しい刷毛が飾られていました。米澤社長は、独立した際にはこうした塗装会社としての象徴のようなものを作り社内に飾りたいと、ずっと思っていたらよかったそうです。社長のこれまでの努力の軌跡や、積み上げてこられたものを感じられるような存在感がありました。この刷毛はこの先も、会社の歴史と共に継がれていくのでしょうか」

つまみ枝豆：談